

農業がオモシロイ産業だと知って

若者がUターンしたくなるプラン

申請者:寺岡 昌一

市町村:琴浦町

プラン期間:平成26~28年度(3年間)

支援事業期間:平成26、27、28年度

【プラン概要】

今より多くのお客様に寺岡農園の美味しいフルーツトマトを食べていただくためビニールハウスの増床を行う。また、ブロッコリーの増反を図ることで経営全体で周年雇用が可能となり、雇用者の受け入れ体制を整備することができる。

1 プラン目標

具体的な数値目標

| 目標項目 | 単位:a | | | |
|------------|------|-----|-----|-----|
| | H25 | H26 | H27 | H28 |
| 抑制トマト栽培面積 | 18 | 22 | 36 | 36 |
| スイカ栽培面積 | 55 | 107 | 78 | 98 |
| ブロッコリー栽培面積 | 200 | 300 | 400 | 500 |
| 半促成トマト栽培面積 | 12 | 12 | 30 | 45 |
| 合計 | 285 | 441 | 544 | 679 |

2 課題・対策

| 課題 | 対策 |
|---|---|
| フルーツトマトは店で販売しているが、各店舗の要望数量に応え切れていない。 | トマト施設を増床することで、現在取引のある店の要望数量を出荷することが出来る。 |
| ブロッコリーの収穫は深夜0時から早朝行っているため雇用環境は劣悪であり、収穫時間が深夜に決められているため増反は不可能である。 | 予冷庫を導入することで、前日収穫が可能となり労働環境を改善することができ、併せて増反が可能となる。 |
| 元々新規就農者であり、トラクターは近隣農家から借りているため、必要な時に管理作業をすることが出来ない。 | トラクターを導入することで、作業計画を立てやすくなり、効率的な管理作業が可能となり、各品目の増反が可能となる。 |

3 支援事業の実施計画

| 導入施設等 | 実施年度 | 事業費 | 負担区分 | | |
|--------------------|------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | | 県(1/2) | 町(1/6) | 本人(1/3) |
| ビニールハウス 12a | H26 | 8,727,360 | 4,363,680 | 1,454,560 | 2,909,120 |
| 栽培資材一式 | H26 | | | | |
| 予冷庫(1坪タイプ) | H26 | | | | |
| ビニールハウス 15a | H27 | 9,164,800 | 4,500,000 | 1,500,000 | 3,164,800 |
| ビニールハウス 6a | H28 | 9,132,850 | 4,500,000 | 1,500,000 | 3,132,850 |
| 栽培資材一式 | H28 | | | | |
| トラクター35ps ロータリー | H28 | | | | |

農業がオモシロイ産業だと知って若者がUターンしたくなるプラン

琴浦町 寺岡 昌一

上京した若者が1人でも「実家にトラクターあるよな?」「畑ってどうなってるんだ?」と郷を想って貰うプランです。ゼロから就農した素人が事業を成功させる事で、帰郷・移住を考える若者が生活面で「農業もアリか?」と感じて頂けるキッカケになれば最高です。

I はじめに

(1) 背景

私は、平成21年9月に

一年の研修を終了し、就農して3年が経ちました。現在は、半促成スイカ1.8a・半促成中玉トマト9a・トンネルスイカ40a・初夏ブロッコリー60a・抑制中玉トマト1.8a・秋冬ブロッコリー2haを作付しています。

就農当初より、中玉トマトの高精度栽培技術に興味があり研究に没頭しておりました。現在では、市場をはじめ、店舗・お客様からも「フルーツトマト」として好評価をいただけるようになりました。

就農当時、中玉トマトの系統出荷（地域生産部）が無く、出荷を行っていましたが、収入が安定せず、農業の難しさを痛感していました。しかし、就農以前は営業職をしていましたので、様々な取引先を探し、販路の拡大を図ってきました。就農2年目には、と取引をするようになり、就農3年目の今、お客様のニーズが高まり規模拡大が迫られています。しかし、単的な増床は、偏った農繁期・農閑期を作ってしまう円滑な運営の妨げになるので、現在の運営に甘んじております。

(2) 現状

現在の施設は、ビニールハウス1.8a・借用しているビニールハウス1.8a・露地は全て借用で3ha栽培しています。

春・秋は施設栽培、夏・冬は露地栽培と栽培体系を組んでおり、私と妻・常用雇用2名の計4人で年間通して作業を行なっています。

てらおか農園のフルーツトマトは、現在、

へ納品しています。

作付面積から収穫量が少なく、各店舗への納品量も少なくなっているせいで、一部のお客様の予約「取り置き」が発生し、店頭には並ばない状況になっている。

てらおか農園のブロッコリーは、系統出荷を行なっており、農閑期に於ける作業の主力になっています。しかし、ブロッコリーは鮮度が命の為、収穫終了時刻が決められています。気温の高い時期は夜中の収穫になります。現在は、早朝2時間で収穫出来る量を

作付していますので、従業員の無理な深夜出勤はありませんが、利益が出る作付面積とは言えない状況にあります。

(3) 改革

もっと多くのお客様に、てらおか農園の美味しいフルーツトマトを食べて頂くには？
併せて、現在よりもっと安定した労働環境を整備するには？

家族と従業員ともよく相談した結果、施設栽培・露地栽培の規模拡大をバランス良く行なって自慢のフルーツトマトを全国に届けようと決定しました。

施設増床をすることで、沢山のフルーツトマトを作る事ができる。反面、農閑期での雇用が困難になります。現在の栽培体系は、極端な農閑期が無い作付をしている為、全体のスケールアップが良いと考えています。

全体のスケールアップには、ビニールハウスの増床に伴う、ブロッコリーの栽培面積の拡大も重要になります。その問題も、ビニールハウス・トマト栽培資材・大型トラクター・ブロッコリー用の予冷库を導入することで解決しますので、チャレンジする事に決定しました。

(4) 地域振興とプランの目的

私が農業を通じて地域貢献出来る事、それは経営者として雇用を創成し、安定した給与をキチンと支払い、そして、給与をシッカリ地域で使って貰うことと考えています。

都会よりも不便さはありますが、何事にもチャレンジ出来るチャンスが鳥取県にはあると感じています。

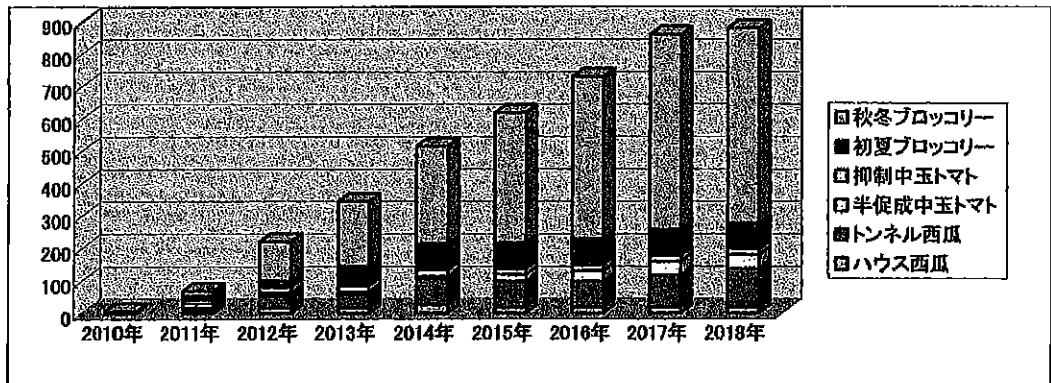
そんな鳥取県に U ターンして故郷に帰りたいと思っている人が、全国に沢山居られると思います。

雇用の創成によって「故郷を想う気持ち」を受け止められる企業になることが、てらおか農園の目的です。

その一歩踏み出す為、このプランに挑戦したいです。

II 経営の現状

(1) 栽培面積の推移



作付農地は、全て琴浦町内の遊休農地・耕作放棄地を整備し規模拡大しています。

(2) 現状の労働力

| 区分 | 年間労働日数 | 年齢 | 備考 |
|----|--------|----|-----------|
| 本人 | 300日 | | 認定農業者 |
| 妻 | 300日 | | 家族間経営協定締結 |
| 雇用 | 8時間/日 | 2名 | 農の雇用事業 |

(3) 現在の栽培体系

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|---------|----------|----|----|---------|----------|----------|----|----|-----|-----|---------|
| ハウス西瓜 | | △ 定植 | △ | | | □ 収穫 | | | | | | |
| トンネル西瓜 | | | △— | —△ | | | □□ 収穫 | | | | | |
| 半促成中玉トマト | | △ 定植 | | | □— | —□ 収穫 | | | | | | |
| 抑制中玉トマト | | | | | | △ 定植 | | □— | — | — | —□ | |
| 初夏ブロッコリー | | △— 定植 | —△ | | □ 収穫 | □ | | | | | | |
| 秋冬ブロッコリー | — 収穫 | — | □ | | | | | △— | —△ | □— | — | — 収穫 |

安定した常時雇用が出来るよう品目と時期を工夫して作付をしています。

(4) 現在の施設・設備 (年度)

| 内容 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 実施主体・関係機関 |
|----|-------|-------|-------|-------|-----------|
| | | | | | |

| | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|-----------|
| 軽トラック 660cc | ◎ | | | | 就農条件整備・本人 |
| 野菜移植機 apc-100 | ◎ | | | | 就農条件整備・本人 |
| ビニールハウス 6m×50m×3 棟 | ◎ | | | | 就農条件整備・本人 |
| 乗用管理機2条 アグリカ | | ◎ | | | 就農条件整備・本人 |
| ビニールハウス 7m×43m×3 棟 | | ◎ | | | 経営体育成・本人 |
| 作業場 木造2F 18m ² | | | ◎ | | 本人 |
| 軽バン 660cc | | | ◎ | | 本人 |
| 軽ワゴン | | | | ◎ | 本人 |
| 軽トラック 660cc | | | | ◎ | 本人 |

借用

ビニールハウス 6m×50m 6棟 年契約
 トラクター 18ps ヤンマー 事前打合せの上

Ⅲ問題と対策

(1) フルーツトマトの規模的収量不足

フルーツトマトの全量は、店舗で販売頂いています。
 全体的に数量が少なく本年度に至っては、関西方面での取引は中止しており、要望に応えられない状況にあります。いくら優位販売を行なっても継続しなければ、お互いに良い仕事にはならず、尽力頂いた方や、お客様の期待を裏切る状況を招いてる。

対策

- ・ 平成26年ビニールハウス 6×48mを4棟
 - ・ 平成27年ビニールハウス 6×48mを5棟
 - ・ 平成28年ビニールハウス 6×48mを2棟
- と必要なトマト栽培資材（イボ竹・誘引具・支柱）を導入、作付面積の拡大をし、収穫量の増大を図ります。

効果

- ・ 沢山のお客様へフルーツトマトが届けることが出来、鳥取の美味しい農産物を知ってもらえる。
- ・ 作付面積の拡大によって雇用が必要となり、新たな雇用の場が増える。
- ・ 今まで控えめに企画していた「鳥取農産物フェア」の開催打診が積極的に提案でき、他の鳥取県農産物販売・PRのきっかけになる。
- ・ 数量確保が出来る事から定植時期を調整することで、最盛期の分散・調整が出来、安定した出荷・資金の回転が見込まれ、経営が安定する。

(2) ブロッコリーの規模拡大による品質保持と労働環境作り

ブロッコリーの収穫は、生産部の取り決めで、深夜0時～早朝までとされています。予冷庫を有しないブロッコリー農家は、収穫繁忙期になると、深夜から投光器をつけ収穫し、調整作業を行い、11時までには選果場に持ち込み、昼から管理作業を行っています。

近年、「予冷設備を有する生産者で、品質の保持が可能」な場合に限り、前日、夕刻からの収穫が認められるようになりました。収穫時刻の多様化は、深夜労働を、夕刻作業にあてたいと考えています。

対策

・ 予冷庫（1坪タイプ）の導入

規格選定理由 : 予備予冷を原則仕様するため1日の最大出荷量150ケースの半数量の収納ができれば充分である。(横4列×6段×奥2列=28コンテナ) 出荷約70ケース

出荷量150ケースは、ブロッコリー個数3000個です。その半数は1500です。コンテナ1個当たり60個前後入れるので、60×28コンテナ=1680個、200個は格別の想定です。

作業性の向上を考えれば全量収納可能な2坪タイプが適正で、もっと優位な作業効率・品質維持が可能であるが最低規格としています。

対策

・ トラクター（35psキャビン仕様）+180cmロータリーの導入

規格選定理由 : 現在、トラクターは借用で都合の良い時に耕耘等が出来ない。

地元出身でないため、圃場が点在し移動距離は長い。

予定している作付目標の600aを遊休管理等含めて耕耘する回数は年8回で、年間の耕耘面積は4800aとなります。申請の35PS180cm巾のロータリーでは作業速度、耕耘幅により効率向上が期待出来ます。

また、初夏・秋冬ブロッコリーでのトラクター活躍時期は、厳寒期と猛暑の時期です。トラクター操作する人員は園主・作業長で、業務的重要な人員の体調管理、横転事故のリスクヘッジからキャビン仕様のトラクターが必要です。

効果（トラクター・予冷庫の導入により）

- ・ 作業性が現在能力より30%以上向上します。また、圃場間の移動時間も短縮され更なる効率化が期待できます。
- ・ 規模拡大によりブロッコリー単作での運営が可能になります。
- ・ 夕刻の収穫が可能になり、深夜収穫など過酷な作業が少なくなり、健康管理・事故のリスクの

軽減に繋がります。

- ・ 品質維持により、クレームによる対応・返金が減少し、美味しいブロッコリーを届ける事ができる。
- ・ 農閑期と言われる時期のブロッコリー栽培面積拡大は、年間に於ける常用雇用を可能にし、また労働力不足による運営リスクの軽減になる。

IVプラン達成時に期待出来る地域への波及効果

(1) 経営規模拡大による経営の安定化

規模拡大と作付の多様化により天候のリスクヘッジが可能になり経営が安定する。

(2) 農業ポジティブキャンペーン

安定した農業ビジネスを実証すること、県内外の視察・体験農業の受入れなどで、農業って面白いというイメージが広がる。

(3) 景観対策

遊休農地を耕作地として整備し、荒地が無い田園風景が広がる美しい町になる。

(4) 雇用対策

規模拡大により新たな雇用を生み、常時雇用することで安定した生活環境が提供できる。

(5) 地域の活性化

収量が増えることにより、現在も実行している での鳥取県農産物マルシェの企画・開催回数が増え、鳥取県のPRに貢献出来る。

V具体的な取組と役割分担

| 内容 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 実施主体・関係機関 |
|--------------------|-------|-------|-------|--------------|
| ビニールハウス 6m×48m×4 棟 | ◎ | | | 県・町・本人 |
| ビニールハウス 6m×48m×5 棟 | | ◎ | | 県・町・本人 |
| ビニールハウス 6m×48m×2 棟 | | | ◎ | 県・町・本人 |
| トマト栽培資材一式 | ◎ | | ◎ | 県・町・本人 |
| 予冷库(1坪タイプ) | ◎ | | | 県・町・本人 |
| トラクター35ps+ロータリー | | | ◎ | 県・町・本人 |
| 品質保持 | ○ | ○ | ○ | 本人・普及所 |
| 規模拡大 | ○ | ○ | ○ | 本人・農業委員会 |
| 雇用 | 3名 | 5名 | 6名 | 本人・職安・HP |
| 新規就農者の育成 | ○ | ○ | ○ | 本人・県・公社 |
| 体験農業の受入れ | ○ | ○ | ○ | 本人・公社・団体 |
| 鳥取県 PR 活動 | ○ | ○ | ○ | 本人・県・町・企業・組織 |

VI支援事業の内容

| 導入施設等 | 実施年 度 | 事業費 | 負担区分 | | |
|---------------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | | 県(1/2) | 町(1/6) | 本人(1/3) |
| ビニールハウス 12a | H26 | 8,727,360 | 4,363,680 | 1,454,560 | 2,909,120 |
| 栽培資材一式 | H26 | | | | |
| 予冷庫(1坪タイプ) | H26 | | | | |
| ビニールハウス 15a | H27 | 9,164,800 | 4,500,000 | 1,500,000 | 3,164,800 |
| ビニールハウス 6a | H28 | 9,132,850 | 4,500,000 | 1,500,000 | 3,132,850 |
| 栽培資材一式 | H28 | | | | |
| トラクター 35ps ロータリー | H28 | | | | |